

HUGの活動紹介

今年度も盛りだくさんでした!

ここP 2014報告



ここP (3.11ここからプロジェクト) は東日本大震災のあと、原発や放射能に関して「みんなで語り合う場がほしい」というママたちの声を受けて生まれた、HUGのプロジェクトです。

7月7日 DVD「カノンだより」上映&おしゃべり会

チェルノブイリ事故後のベラルーシやウクライナ、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故後の福島で、子どもたちを支える人々を記録した鎌仲ひとみ監督の最新作「小さき声のカノン」の制作過程で撮影した映像をあつめたDVD「カノンだより vol1」を見て、おしゃべりをしました。震災から3年あまり、震災が風化しつつあること、でもまだまだ心配な気持ちがあること、そしてそれを口に出しにくくなっていることなど、みんなで話しました。(地域福祉センターにて)



DVD「カノンだよりVol.2」上映+おしゃべり会

2015年3月12日(木) 10:00~12:00 (400円)
震災から4年たった福島、事故から29年になるチェルノブイリ……。お子さん連れどうぞ!
会場…いきいきプラザ3F 地域活動室
※問い合わせ 080-3385-2148 (鈴木)

10月9日 からだにいいお弁当を作って食べよう!

天気の良い日は外でお弁当を食べたいよねと始まったお弁当企画。マイ弁当箱に発酵食品をつかったおかずを詰めておしゃべり。もちろん講師による食べ物とからだ、そしてお弁当のコツなどの講義も! (富士見公民館にて)



みんなのお弁当が大集合!

食べ物おしゃべり会 おやつを食べながら過ごすおしゃべり会も開催しました。食べ物のことやからだのことなど、子どもと一緒にホンネトークを楽しみました。

5/27 子どもといっしょに楽しいごはん
12/9 からだにいい食べものって?

2015年も上映会やおしゃべり会などを予定しています。お楽しみに!



ファミサポ便利 リスクマネジメント研修を行いました ~知る・予防する・備える~

ファミリー・サポート・センターでは1月26日に提供会員向けの研修を行いました。依頼会員のお子さんをお預かりするときに、部屋の中でも、どんな事故やケガにつながる危険があるか予測し、予防することで、安心・安全なお預かりを続けていけるように改めて学びました。

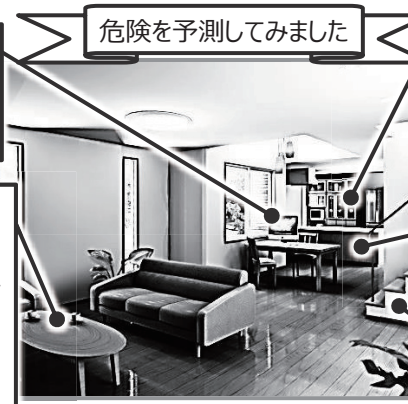
◆キッチン◆

刃物だけではなく調理器具なども、子どもが触ればケガや事故につながる場合があるのではないかな?

◆テーブル・棚・床の上◆

割れ物や重い物は、触れたり落としたりすればケガにつながるのではないかな? ビニール袋などは頭にかぶれば窒息する危険があるのではないかな? 食べられる物でも、子どもの口では喉に詰まらせるようなものはないかな?

危険を予測してみました



◆電化製品◆

熱や蒸気の出る家電に触れると火傷をするのではないかな? 設置場所により、コードが転倒や首絞めの原因になる危険はないかな?

◆扉・引き出し◆

開閉時に指をはさんだらケガをするのではないかな?

◆階段・高い椅子◆

登ってしまい転落した場合にケガや事故につながるのではないかな?

会員同士で意見を出し合い、これは特に問題が大きいというものを絞り込み、自分達ならどう予防するかということ話し合いました。そして、大切なことはなにか、全員で再認識しました。

1. 子どもの行動を予測し、手の届くところに危険なもの(につながるもの)を置かないこと
2. 子どもから目を離さないこと

ファミサポでは随時こうした研修を行い、会員さんの更なるステップアップを目指しています!

子ども 選挙へ行こう!!

4月26日(日) 東村山市 市議・市長選挙



- ★20代、30代の選挙の投票率が低い
- ★子どもたちに選挙権がない

子育て中やこれから子どもを産み育てる世代の意見が政治に反映されにくくなっています。子ども達のこと、私たちの今、そして未来のことを真剣に考えてくれる政党、政治家を選ぶ目を持たなくちゃ!!

私たち「親」の一票は、選挙権を持たない子どもの分も含めた大事な一票です!

★期日前投票★

投票日に行けない人はぜひ! 思っているよりずっと簡単です!

雑記報 ■春はもうすぐ。卒入学とつて心躍る季節というだけでなく、大人とつても心新たになる季節ですね。■H26年度、HUGでは支援の担い手を増やして育てていきたいということ、赤ちゃん体の発達で大切なことをママ達に伝えたいという思いから、二つの講座を企画・実施しました。■一つは1/9臨床心理士永田陽子先生の『子育て支援者の役割・あり方とは...』これから子育て支援活動しようとする人にもスタッフ経験者にも目からウロコのお話が満載でした。印象に残ったことの一つはグループごとに自分達が子どもの頃に遊んだ遊びと遊び場をリストアップしてそれが今あるか(できるか)を皆で話し合ったこと。今の子ども達にとつていかに遊ぶ環境が減少しているかを痛感しました。■講座二つ目は3/2どうしてそんなにハイハイが大事なの? (日本幼児健康体育協会 池田先生。約20組の親子さんが参加して、実際に体を動かしながら学びました。■ささやかではあります、私達の活動が少しでも子育て中のママ達に役立つこと、また豊かな地域になることを願って、これからどんな活動をしていくか、計画真つ最中です。皆さんの声もぜひ聞かせて下さい。■大震災から4年。復興までの道のりが長びくにつれ、被災地の子ども達に深刻な影響が出ているとのニュースに心が痛みます。無力感も味わいつつ、関心を寄せること、意思表示することをし続けなくては。私達に課せられている責任は大きいと思います。■今回のHUGコミ特集は「介護」直面しているスタッフ急増中!!

トコトコメンバーは、こんなコトしてます♡

◎編集と印刷・製本だけに力を費しているわけではありません。
遊ぶの大好き、食べるの大好き、集まるの大好きなワタシたち。
いろいろ、やってるんですよ〜♪

※100号記念はクリスマスと重なったので、参加自由のオープン企画を開催。
クリスマスリース製作や絵本の読み聞かせなどのイベントをやりましよ。

お花見

中央公園
天王森公園など 単なる
おイベント+おしゃべり
ではありません。
“だるまさんがころんだ”
“パン(あめ)食い競争”
などをマジで
やります。
“おかし”
“ゲーム”
なども
やりました。

変わりお食事会

パフェの会
フルーツ、おかし、アイス盛り放題

どら焼きの会
あん・クリーム類以外に、ザンシな物もはさんでみる。

子ども服・おもちゃ交換会

上は中学生、下は生まれたて、
子どもがたくさんいるので
お下ガリの交換をよくやります。

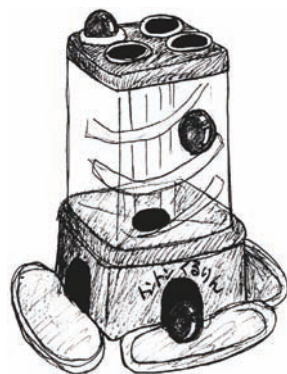
スライ
↑のものは大人気。

ぷくぷくダイアリー 「トントンくるりん」

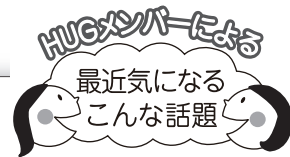
誰もが一度は通るといっても過言でないほど、ぷくぷくで人気のおもちゃ『トントンくるりん』。上から玉をいれるとくるくる回って下から出てくる単純なおもちゃですが、実は奥が深いのです。赤ちゃんが『トントンくるりん』で遊ぶには、とても高度な技術が必要なのです。

- ザッとあげてみても、
- ①お座りができる
 - ②ボールがつかめる
 - ③ボールを落とさず下から上へ運ぶ
 - ④穴に狙いを定める
 - ⑤ボールを離して入れる

こんなに、いろんなことをクリアしないとできないんですよ。
特に⑤がポイントです。赤ちゃんは、手をギューっとにぎっていますが、5、6カ月頃から物をつかむようになり、つかんだものを離せるようになるのが、ちょうど1歳頃。
たまに「昨日まで入れられなかったのに、今日初めていれました」という瞬間に立ち会わせてもらうことも。そんな時は、本当にうれしくなります。
赤ちゃんのしぐさの裏に、いろんな成長のドラマがあるんだと気づかせてくれるおもちゃ、『トントンくるりん』のお話でした。



のぐちちよう子育てひろば ぷくぷく 東村山市野口町2-4-36 TEL 393-4181
(東村山駅西口より徒歩13分、スーパーカネマンさん斜め向かい)



介護あれやこれや

赤ちゃんにかえっていく
*義母 82 歳の場合

年齢のわりには元気な義母。でもさすがに最近では整形外科や内科に付き添うことが多くなってきた。同居して4年、当初は私も遠慮がちだったが、段々図々しく(?)体調不良時の世話も思い切って出来る様に…。最近では、義母の志村けんさんのコトのおばあちゃんのような口調が私にもちょっとうつってきて「あんだか寒いね〜(義母)」「そーだね〜(私)」なんて。

一方、実母は大昔に40代で病気であっけなく亡くなり、介護したのは2ヶ月ほど。でも短く濃〜い時間の中で私の知らない母の若い頃の事などいろいろ話せて、最後まで一緒に居られて良かった。老人専門病院に勤めてた母は、「お年寄りには赤ちゃんにかえってみたいでかわいい時あるのよ!」と言ってたっけ。自分が年取った時どうしてもらいたいかなあ、なんて思いながらユルユル〜義母と一緒に暮らしてます。(A)

おばあちゃん見守りに大汗(*_*)
* 義母 88 歳の場合

8年前に同居後、室内で3度転倒骨折、そのたびに認知が進んできた義母。不自由な足で歩行器をゴトゴトさせながら家中を徘徊しまくり、たった今トイレから戻って座ったとたん立上り、目的を忘れてまた戻り…と、とにかく忙しい。いきなり窓を開けたり髪を洗ったり思いがけないことをするので、うっかり注意し逆に興奮させて大泣きされ、夫も私も撃沈(笑)。

本人のしたいようになるべく黙って見守るのがコツ?と頭では悟ったものの、体にしみついた「話せばわかる」神話がぬけきれず…。この人には話が伝わらないのだと本気で認めるのは、すごく難しくキツイことだと気づいたこの頃。まだまだ修行がたりないようです。(M)

元気でなにより。わが家の事情 ^_^;
* 義父 83 歳の場合

義父と同居を機に今の家を建てた。下の階…義父の部屋と趣味の音楽室。上の階…リビングキッチンと部屋大1つ、家族4人で寝ることに。「女の子と男の子だから、子どもが大きくなったら2つに分けて、私達は義父の部屋に移れるようにね」。

そう考えてから早10年、娘も中1に。娘「そろそろ部屋が欲しいんだけど、いつ2つに分けてくれるの?」夫「いつって…、わからないよ。そのうち待ってなさい」私「待ってたら、大人になっちゃうかもね。(^_^)」
待つって何を〜? 我が家の 83 歳、超元気。忘年会参加は 13 日! いや、元気で何よりなんです。現在、せめて男部屋と女部屋にするかと計画中。(T)

いやなことも忘れてくれてありがと!
* 父 83 歳の場合

もともと母の足腰が弱っていくのをきょうだいで心配していたのですが、最近父のもの忘れが悩み。でも悪いことばかりではないと感じることもあります。昔から私と父はそりが合わないというか、言い争うことが多かったのですが、最近ではえら〜フレンドリーなのです。

私と面倒なやりとりをしたことなど忘れてしまったのか、そういうことはどうでもよくなったのか、やけにオープンマインド! もの忘れの段階が一つ進んだのだとは思いますが、晩年にこうして垣根を取り払えるのも人生にはアリなのかもとしんみりと思う今日この頃です。(R)

母は今…
* 母 85 歳の場合

父が6年前に亡くなり、ショックでがっくり来てしまった母。障害を持つ兄との二人暮らしは綱渡り状態。姉と交代で月に何度か様子を見に通っています。つらいのは、母がすっかり意欲を無くし、何を楽しむ事もなく、考えるのを一切やめてしまった様に見える事。家もありお金にも困らず、(認知症以外の)病気も無く歩いてどこにでも行けるのにどうして???と残念な気持ちが拭えない。

けれど、両親を介護した詩人の本に「一晩年の父母は、死に方もまるでわからないみたいだった」と言う様な事が書かれていたのを思い出す。母は今色々と感じなくなると、この世を手放す準備をしてるのかも。生きる事が楽しかったら別れて行くのは辛いだろう。自分本位に責めてはいけないのかな…。(K)

子育て以来の終わりの見えない日々
* 父 88 歳の場合

昨年2月13日、父が余命3か月と言う事で退院して我が家に来た。そして1年が過ぎ、歩けなくなるか、咀嚼もできないかも、と言われていた父は、室内なら歩け、正月にはお雑煮を食べた。

「わーすごい!! 良いことばかり」と言われるかもしれないが、私は複雑。2,3か月なら、と思ひきとったが、あと何年続くのか?というのが正直な気持ち。話すのも気が重いけど、改めてどの様に生活して行くか、一緒に考えなければならぬと思っている。

この1年でよくわかったのは「年寄りが1人で生きるのは難しく、栄養、睡眠、服薬、衛生管理…様々な面で誰かの手を借りなければならぬ」という事。自分も年を取ったら、1人でのおんぼり、ぼっくりなんて思ってたけどね。(Y)

